



ちまきとかしわもち 何の葉で包む？

スーパーに並ぶ「ちまき」はササの葉、「かしわもち」はカシワの葉で包んだものが常連ですが、本来は葉も包み方も地域の個性がありました。あなたの地域では、おもちをどんな葉でどんな風に包みますか？



はっとり たもつ
服部 保

兵庫県立大学名誉教授

5月5日の端午の節句には、ちまきとかしわもちが供えられます。ちまきは砂糖の入っていないもち（団子）を葉でくまなく包み、熱湯で煮るなどしてつくられたものです。かしわもちはあん入りのもち（団子）を葉で部分的に包み、蒸すなどしてつくられたものです。ちまきは保存食としても利用されていましたが、もち全体をくまなく包んだ上に熱湯で煮ることによって全体が殺菌されていましたので保存がきいたのです。あんを入れるかしわもちはもともと保存できないので、もち全体を包む必要がありません。

ちまきはチガヤの葉でました

端午の節句は、中国で春秋戦国時代の楚の政治家・屈原を弔うために始まつたとされ、その行事に用いられた供え物の粽ちまきが日本へ伝えられ、ちまき（茅巻き）に変わつたと考えられています。平安時代の890年ごろには、ちまきの記載があるので歴史はたいへん古いですね。現在のちまきはよくササの葉で巻かれていますが、本来はチガヤ（茅）の葉で巻くことから「ちまき」の名前が生まれました。チガヤは神聖なもの、あるいは呪力をもつていると考えられており、そのことは夏に神社で行われる



茅の輪くぐり（龜戸天神社）

クイズ

左ページ写真のどの葉で包んだおもちでしょう？



茅の輪くぐりに現在も生きています。神聖なチガヤの葉で巻いたもちを、神様に供えるということだったのでしょうか。最初はチガヤのちまきであつたのが、地方へ伝わるとともに、また時代を経るとともにさまざまな葉が使用されたと考えられます。

「かしわ」とは炊事に使われた葉

葉で部分的に包んだものは古くからあつたと思いますが、端午の節句にカシワの葉で包むかしわもちが現れたのは、17世紀の江戸の武家社会といわれています。江戸では盛んだったカシワのかしわもちも参勤交代があつたにもかかわらず、江戸時代から昭和の初めごろまで地方には広がつていません。カシワのかしわもちが全国に広がつたのはここ30～

40年で、それまでは地方ごとにサルトリイバラなどのさまざまな葉でかしわもちを包んでいました。なお、かしわもちの「かしわ」とは、炊ぐ葉のことで料理用に使用されていたさまざまな植物にカシワの名がつけられ、サルトリイバラも地方によつては「かしわ」と呼ばれています。

端午の節句に供え物のもちをつくる場合、わざわざ遠くから葉を取つてくるのではなく、身近な里やまに生育している植物を使つたはずです。またそれが地域の食文化のひとつとなつたと思います。残念ながら今は、ササのちまきとカシワのかしわもちにおされて、そのほかは絶滅寸前です。ぜひ一度、地元のちまきとかしわもちを調べてみてください。里やま文化を守るためにも。

写真（ホオノキとススキの葉）：伊藤信男

大正末期～昭和初期のかしわもちとちまきに利用した植物



かしわもち (地点)		ちまき (地点)	
サルトリイバラ	127	ササ類	108
カシワ	57	ヨシ	28
ホオノキ	7	ススキ	22
ミョウガ	7	タケ類	14
ナラガシワ	5	マコモ	8
コナラ	4	ゲットウ	7
ニッケイ	3	トチノキ	4
カシ類	3	ナラガシワ	4
クヌギ	2	ヤダケ	3
ヤブツバキ	2	ホオノキ	3
アカメガシワ	1	クヌギ	2
アベマキ	1	ビロウ	2
カキノキ	1	ダンチク	2
クズ	1	カシワ	2
マテバシイ	1	ミョウガ	1
ミズナラ	1	バショウ	1
ムベ	1	チガヤ	1
		アベマキ	1
		クリ	1
		アカメガシワ	1
		アオノクマタケラン	1

文献・聞き取り調査から、46都府県、かしわもち224地点、ちまき200地点で情報が得られた。北海道は本州からの移住者がそれぞれ持ち込んだと考えられるため調査地に含めなかった。チガヤのちまきが確認されたのは、愛媛県宇和島市の1例のみ。チガヤは葉が細いので、もちを包みやすい葉の広いススキ、ヨシ、ササ（チマキザサ、クマザサなど）が使用されるようになったと考えられる。



サルトリイバラ



日本での分布 北海道～沖縄

サルトリイバラ科（ユリ科）。葉がつるつるで、香りがよい。ルリタエハの幼虫の食草。



カシワ



日本での分布 北海道～九州

ブナ科。葉の香りがよい。枯れ葉が新葉が出来るまで枝についているため家系継続の象徴とされる。



ホオノキ



日本での分布 北海道～九州

モクレン科。葉の香りがよい。長さが30cmほどになる日本最大級の葉が付く。



ダンチク



日本での分布 関東南部以西～沖縄

イネ科。ヨシに似るがより大きい。茎はケラリネットのリードに利用。



ゲットウ



日本での分布 九州南部～沖縄

ショウガ科。葉がつるつるで大きく、香りがよい。



ススキ



日本での分布 北海道～沖縄

イネ科。葉の縁がギザギザしているため、手を切らないように要注意。

日本自然保護協会会員募集中！

お問い合わせはTEL：03-3553-4101 Eメール：nature@nacsj.or.jp

このページは、筆者の方に教育用のコピー配布をご了解いただいております
(商用利用不可)。http://www.nacsj.or.jp/katsudo/kansatsu/からPDFファイルがダウンロードできます。自然観察会などでご活用ください。

EPSON
EXCEED YOUR VISION

本コーナーは、エプソン純正カートリッジ引取回収サービスを利用されたお客様のポイント寄付によるご支援をいただいております。